シニアのためのパソコン＆スマホ広場（その 165）

Window11 要件非対応パソコンに Ver「26H2」をインストール

はじめに



Windows11は、バージョン毎にWindows11の適合要件を満たしているか否かをチェックするロジックが組み込まれています。

Windows11に新しいバージョンが提供されると、適合条件を満たしているパソコンには“Windows Update”を介してバージョンアップ情報が順次配信されますが、非適合パソコンに配信されません。

そのため、Windows11の適合要件を満たさないパソコンを新バージョンにするには手動で行わなければならず、以下の3方法がありますが、これらの方法はマイクロソフト社のサポートが受けられないため、自己責任で行うことになります。

Windows11適合要件非適合パソコンを Ver「26H2」にする方法

（1）“**setupコマンド**”**を使い**、パソコンをサーバーとみなしてインストール。

（2）「**Rufus（ルーファス）**」というソフトでインストールツールを作成してインストール。

（3）（3）Windowsの“**レジストリ**”**を変更**してインストール。

上記3方法のうち、（2）番目の「Rufus（ルーファス）」という無料ソフトを使う方法は16GB以上のUSBメモリが必要になり、（3）番目の「Windowsのレジストリを変更する」方法は、操作を誤るとシステムトラブルが起きるリスクが伴うので、今回は（1）の簡単なコマンドを使う方法を解説します。

“setup”コマンドで、パソコンを「サーバー」とみなして Ver「26H2」をインストールする

― 手順 ―

（1）「スマートアプリコントローラー」の設定をオフにする

Windows11の「**スマート アプリ コントロール**」とは、悪意のあるアプリや望ましくない可能性のあるアプリをブロックする機能です。

「スマート アプリ コントロール」は、「**Microsoft Defender**」 や Microsoft以外の**セキュリティ ソフト**と連携してパソコンの保護を強化します。

そのため、ファイル拡張子が”**ISO**“のファイルをダウンロードする場合、「スマートアプリコントロール」機能設定がが“オン”になっていると、そのファイルは**不審なファイル**とみなされてダウンロードエラーになるため、「スマート アプリ コントロール」を“オフ”に変更しておきます。



① 「スタート」→「設定」をクリックする。

② 「プライバシーとセキュリティ」をクリックする。

③ 「Windows セキュリティ」をクリックする。

④ 「アプリとブラウザの制御」をクリックする。

⑤ 「スマートアプリコントロール」の「スマートアプリコントロール設定」という青文字をクリックし、“オン”になっていれば“オフ”を選択する。

※　パソコンによって、設定値が“オフ”になっているものもあります。

（2）マイクロソフト社のサイトから、Windows11の“ISO”ファイルをダウンロードする。

① “Microsof Edge”などのブラウザを起動して以降の操作をする。

② 「検索キーワード欄」」に、“**ソフトウエアのダウンロード**”と入力する。

③ 開いた画面から、Microsoft の「**ソフトウエアのダウンロード**」にある「**Windows11のダウンロード**」をクリックする。



④ 次の画面が開くので、Windows11をクリックする。

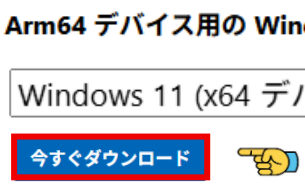


⑤ 下図の画面が開くので、その画面を“ディスクイメージ(ISO)をダウンロードする”ところまでスクロールする。



x64 デバイス用 Windows 11 ディスク イメージ (ISO) をダウンロードする

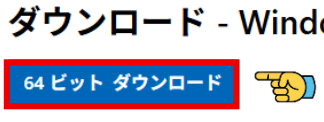
⑥ 「ダウンロードを選択する」の右端「V」をクリックして、Windows11(x64 デバイス用のマルチエディション ISO)を選択し、「今すぐダウンロード」ボタンをクリックする。



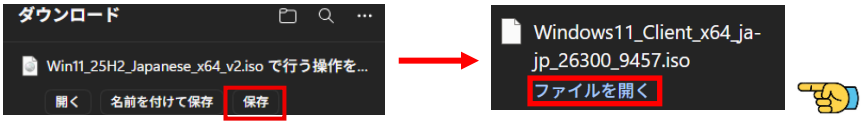
⑦ 「製品の言語の選択」が開くので「V」をクリックして、日本語を選択し、「確認」ボタンをクリックする。



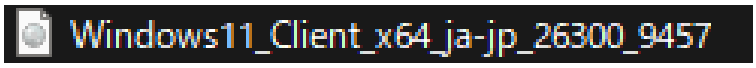
⑧ 下図の日本語表示になったら、「64 ビットダウンロード」ボタンをクリックする。



⑨ 画面右上部に下図左のダウンロード表示が出たら「保存」をクリックするとダウンロードが始まり、完了すると“ファイルを開く“と表示されるので、“ファイルを開く“をクリックする。



ダウンロードしたファイルは、次の名前で“ダウンロード”フォルダに保存されます。



（3）ダウンロードしたISOファイルからWindows 11をインストールする。

① ダウンロードフォルダに保存された「Win11_Cient_x64_ja_jp・・・」ファイルを右クリックする。

② 開いたメニューから、「**マウント**」をクリックする。

※ マウントが表示されないときは、「右クリック」→「プログラムから開く」→「**エクスプローラ**」の順にクリックするとファイルが表示されます。

③ しばらく待つと右図の「ユーザアカウント制御」画面が開くので、「開く」をクリックする。

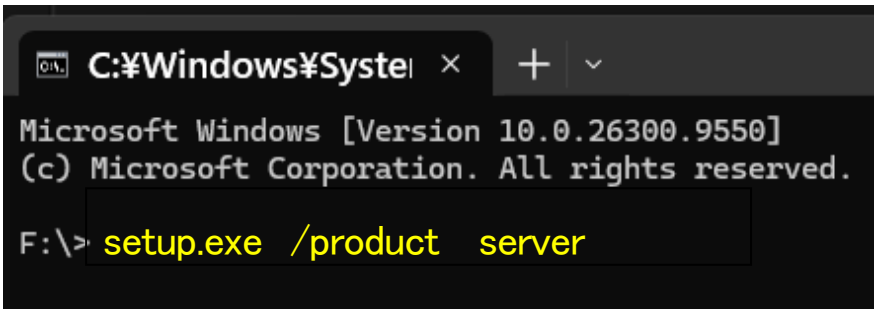


④ 下図の画面になるので、仮想ドライブ名を確認する。

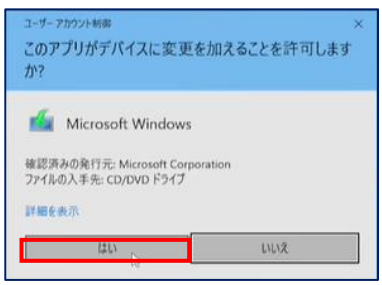
※ 仮想ドライブとは物理的に存在しない論理的なドライブのことで、パソコンの構成によって付与番号が異なります。（この例では、仮想ドライブは“F”ドライブになっています。）



⑥ 上図URL欄の右端空白部分をクリックすると、URL 欄が“F:¥”と表示されるので、続けて“cmd”と入力して Enter キーを押すと、コマンドプロンプト画面に変わるので、下の黄色文字列どおり半角小文字で入力して「Enter」キーを押す。



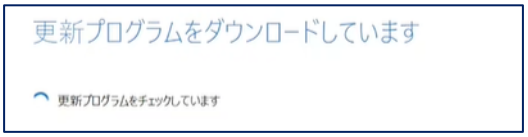
⑦「ユーザアカウント制御」画面が開くので 「はい」をクリックする。



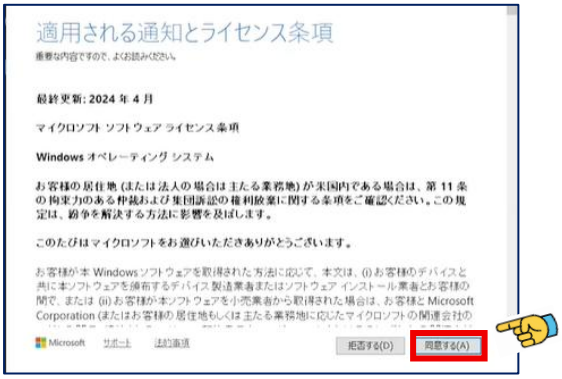
⑧ 「**Windows　Serverのインストール**」と表示して、インストールが開始する。



⑨ 「**更新プログラムをダウンロードしています**」と表示して、更新プログラムをダウンロードする。



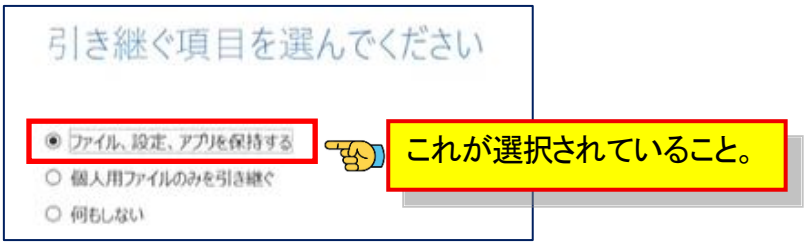
⑩ 「**ライセンス条項**」画面が表示されたら、「同意する」をクリックする。



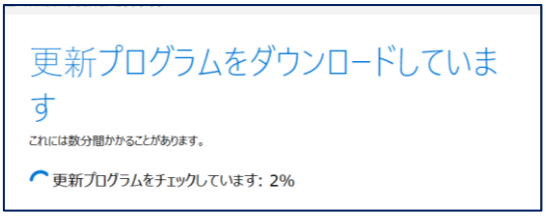
⑪ 「**引き継ぐ項目を選んでください**」と表示されたら、「**ファイル、設定、アプリを保持する**」を選択して「**次へ**」をクリックする。

【注意】

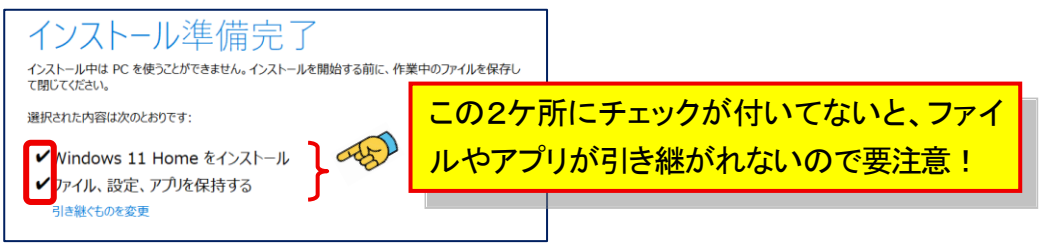
「何もしない」を選ぶとWindows11のみインストールされ、アプリや保存したデータなどが引き継がれないので要注意です。



⑫ 更新プログラムをダウンロードしてインストールするのでそのまま待つ。



⑬ 「インストール準備完了」画面が表示されたら、2ヶ所にチェックが付いていることを確認して「インストール」をクリックする。



⑭ インストールが開始すると下図の画面表示になり、完了するとWindows11Ver「26H2」で起動します。



画面に「**Serverのインストール中**」と表示されますが、***パソコン用Windows11Ver26H2***がインストールされます

⑮ 以下の手順でWindows11のバージョンを確認する。

(a) 「スタート」→「設定」の順にクリックする。

(b) 左側メニューの「システム」をクリックする。

(c) 画面右側を一番下までスクロールして「バージョン情報」をクリックする。

(d) 「システム・バージョン情報」のところの「Windowsの情報」のバージョンが「26H2」になっていることを確認する。



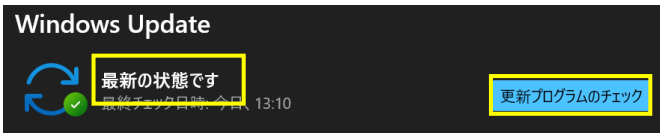
「バージョン26H2」のサポート期限は、2028年10月10日です。

⑯ Windows11が最新状態であることを確認する。

(a) 「スタート」→「設定」の順にクリックする。

(b) 画面左列1番下の **Windows update** をクリックする。

(c) 「最新の状態です」と表示された場合も、再度「更新プログラムのチェック」をクリックして、新たなWindowsUpdateがないことを確認する。



以 上

田辺・西牟婁地区協議会
森田 那華雄